

# 4歳児 F 児 事例⑥

児童名	性別	生年月日	担任	障がい・疾病等の状況	手帳の有無
高殿 三郎	男		2歳児：〇〇・◇◇ 3歳児：〇〇・△△ 4歳児：△△・□□	令和5年度 ・戸外が好き。 令和6年度 ・身の回りのことには、気持ちが向きにくい。 ・戸外に出ると笑顔が多く見られる。 令和7年度 ・身体を動かすことが好き。(特に走ること) ・好きなキャラクターであれば視覚支援有効。	身体障害者手帳 ( 手帳級) 療育手帳 A・B1・ <b>B2</b> 精神障害者保健福祉手帳 1級・2級・3級 特別児童扶養手当 1級・2級
		入所年月日			
		R5.4.1			

医療・相談機関	関係機関からの支援や情報
---------	--------------

<p>令和4年度</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>〇区保健福祉センター (〇医師) (◇保健師) 06-6××-××××</li> </ul> <p>令和6年度</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>〇区保健福祉センター (●医師) (◇保健師)</li> <li>大阪市〇〇こども相談センター (□さん) 06-×××-××××</li> </ul>	<p>令和4年度</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>令和4年〇月〇日 1歳6か月児健康診査：積み木を打ち合わせない、指差しが見られないことの指摘がある。発達相談(小児科・心理)につながる。</li> </ul> <p>令和6年度</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>令和6年〇月〇日 3歳児健康診査：運動発達、精神・神経発達における問診票の記載及び診察時の所見により、発達検査につながる。</li> <li>令和6年〇月〇日 新版K式発達検査(生活年齢3歳9か月) 認知・適応● 言語・社会● 姿勢・運動● 全体DQ● 発達年齢〇歳〇か月 軽度知的障害 療育手帳取得。</li> </ul>
---	--

保護者の願い	支援の目標・内容
--------	----------

<p>令和6年度</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>話せるようになってほしい。</li> </ul> <p>令和7年度</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>言葉がたくさん出てほしい。</li> <li>自分でできることが、増えてほしい。</li> </ul>	<p>令和6年度</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>感じたことや思ったことを、表情やしぐさ、または簡単な言葉で伝えることができるように、身振りやしぐさで伝えようとしている気持ちに気づき、言葉に置き換えて知らせていく。</li> </ul> <p>令和7年度</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>安心して自分の思いを出せるように、子どもの気持ちを受け止め言葉を引き出していく。</li> <li>身の回りのことを自分でしようとする気持ちが育まれるように、視覚支援も使いながら援助したり見守ったりする。</li> </ul>
--	---

この計画内容を確認しました。	令和 年 月 日	保護者名
----------------	----------	------

(就学前確認欄) この支援計画書を就学先小学校に引継ぎすることに同意します。	令和 年 月 日	保護者名
--	----------	------

児童名 高殿 三郎		家庭の様子：家では好きなキャラクターの動画を見て過ごすことが多い。同じ場面を繰り返し見たがり、そのたびに、母の手を引き要求するとのこと。			園長	担任(作成者)
クラス年齢 3歳児・4歳児						
項目	児童の姿	ねらい	具体的な支援・手立て	具体的な状況	評価・今後の課題	
生活	<ul style="list-style-type: none"> <li>登園時の朝の準備は、母が終わるまで待ってけているので、見守られながら自分でできるようになってきている。</li> <li>降園前の帰りの準備は、途中で気が散ることが多く、最後までやりとげることが難しい。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>帰りの準備を最後までする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>進級時に戸惑うことがないように、幼児クラスの保育室の環境は、できるだけ動線を統一する。</li> <li>帰りの用意に必要なものを一度に入れてからロッカー前でカバンに入れるようにする。</li> <li>最後までやりとげることができるように、終わりの会の活動を事前に知らせ、楽しみに思える気持ちをもたせる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>進級して保育室が変わったが、朝の準備は変わりなく自分でしている。</li> <li>カゴには、あまり興味を示さず、自分からは入れようとしないう。</li> <li>終わりの会のエプロンシアターが気に入り、エプロンシアターがあると知っているときは、スムーズに準備することが多い。</li> <li>好きに走りたいので、追いかけるのではなく走っている。</li> <li>同じ鬼役の友達に「タッチするねんで」と言われるが、聞いていない。</li> <li>ボードを使っでの説明は見ている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>進級時の環境変化による影響を考慮し、幼児保育室の動線を統一できた。</li> <li>カゴの意味が分からなかったと思われる。アンパンマンのキャラクターが好きなので、次月はカゴにつけてみる。</li> <li>好きなこと、興味のあることを取り入れ意欲を高め、自分でできた、という気持ちをもたせる。</li> <li>鬼ごっこには興味をもち参加しているが、ルールを理解できていないので、まずは鬼役ルールから知らせようとしたが、ねらいが適切ではなかった。</li> <li>クラスルールにしたことや、ボード等を使っでの説明は、全体的には効果があった。</li> <li>説明時のボードを見てはいるが、実際に始めると理解できていないことが分かる。</li> <li>次月は、逃げる役を継続してみる。</li> </ul>	
認識	<ul style="list-style-type: none"> <li>園庭に出ると、一定時間は走っていることが多い。</li> <li>クラスでの鬼ごっこに興味をもち参加している。</li> <li>タッチして鬼が交代するルールが分からず、走り続けている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>鬼役になり「タッチ」と言うことが分かる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>鬼役と逃げる役を帽子で色分けし、鬼役のルールが分かるまでは、鬼役を続ける。</li> <li>同じ色の帽子の他児の様子に気付くことができるように、鬼役は「タッチ」と言葉で言うことをクラスルールにする。</li> <li>クラス全体に、ボードとマグネットを使って視覚的に分かるように、鬼ごっこのルールを説明する。</li> </ul>			
この計画内容を確認しました。		令和 年 月 日		保護者名		



4歳児F児 事例⑥

( 7 月 ~ 8 月 )

( 保育園 )

児童名 高殿 三郎		家庭の様子：動画を繰り返し見たがるので、1日3回（1回の動画は15分程度）と約束するのに、3回見たら終わりと分かるように、家でも園と同じシールを使ってみるとのこと。			園長	担任(作成者)
クラス年齢 4 歳児						
項目	児童の姿	ねらい	具体的な支援・手立て	具体的な状況	評価・今後の課題	
生活	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「アンパンマン！」と言って、帰りの準備用のカゴを気に入り、コップ等を自分でカゴに入れている。</li> <li>・遊びのときにも、このカゴを使って、玩具や絵本を入れていることもある。</li> <li>・帰りの準備ができたことを、保育者とのハイタッチで喜び合い、終わりの会に参加している。</li> <li>・終わりの会であるエプロンシアターの中でも、好きなものがあり、同じものを繰り返し見たいと要求する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・カゴの中の物を、自分でカバンに入れる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・最後まで帰りの準備が自分できるように、手順を示したイラストをロッカーの目につく場所に貼る。</li> <li>・自分でできた喜びを持続できるように、『できたねシール』を貼れるノートを準備する。</li> <li>・シールを貼りながら、自分でできたことを褒めて認め、保護者にも伝えて共有する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・手順表を見ながら（合ってる？）（つぎは、これ？）というしくさで、保育者に確認しながらカバンに入れる。</li> <li>・シールをもらってノートに貼ると、他の保育者に見せる。</li> <li>・お迎えにきた母親にも自分からノートを見せるようになり、褒められて喜んでいる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ねらいは達成した。</li> <li>・手順表にも、好きなキャラクターを付けたことで、目に留まりやすい。今後の視覚支援の際にも、工夫する。</li> <li>・丸いシールにキャラクターの顔をマジックで描いただけの簡単なシールだが、これが励みとなり意欲と達成感につながったことが良かった。</li> <li>・「このシールなら、家でもできますね」と母親から言ってもらえたので、今後も、園での姿を共有していく。</li> </ul>	
認識	<ul style="list-style-type: none"> <li>・鬼ごっこでタッチされると1回は止まるが、また走り出し、2回目以降は、タッチされても止まらない。</li> <li>・促されて帽子の色は変えることは嫌がらない。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・保育者との1対1の鬼ごっこをする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・鬼ごっこのルールが分かるように、保育者が鬼役になって追いかけて、「タッチ」と言われて触られると『止まる』ことを知らせる。</li> <li>・走ることが好きで喜んでいる姿を大切に、ルールありきではなく、楽しい雰囲気の中で分かっているような工夫や手立てについて、担任間で一緒に考え試す。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「タッチ」と言われて触られると、「タッチ」と言って止まる。</li> <li>・一旦止まって、また走り出すのが、2回目以降もタッチされると「タッチ」と言って止まる。繰り返し、保育者に追いかけてもらうことを喜んでいる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・暑くなり、園庭ではできなかったが、夕方の保育の時間を利用して、毎日少しでも時間を取り、続けている。</li> <li>・「タッチ」されたら『止まる』ことは分かったので、次月は、『交代』を知らせるために、引き続き、1対1での鬼ごっこをする。</li> </ul>	
この計画内容を確認しました。		令和 年 月 日			保護者名	

4歳児F児 事例⑥

( 9 月 ~ 10 月 )

( 保育園 )

児童名 高殿 三郎		家庭の様子：動画を見る回数について、園と同じようにシールを取り入れると効果的だった。そのシールを担当に見せたくて「もっていく！」ということへの言い聞かせができないで困っている、とのこと。			園長	担任(作成者)
クラス年齢 4 歳児						
項目	児童の姿	ねらい	具体的な支援・手立て	具体的な状況	評価・今後の課題	
生活 認識	<ul style="list-style-type: none"> <li>・特に支援の必要はない。</li> <li>・「タッチ」と言われて触られると、「タッチ」と言って止まる。</li> <li>・一旦止まって、また走り出すが、2回目以降もタッチされると「タッチ」と言って止まる。</li> </ul> <p>繰り返し、保育者に追いかけもらうことを喜んでいる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・保育者との1対1の鬼ごっこで、タッチされたら鬼役と逃げる役を交代することが分かる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・帽子の色を変えることは嫌がらないので、「この色の帽子の人は、鬼になるよ」「今度は、〇君が先生を追いかけてね」と具体的に伝える。</li> <li>・初めはタッチされやすいように逃げ、交代を繰り返し経験できるようにする。</li> <li>・「あれ、先生は次はどっちな〜？」と聞くなどして、考える機会をもつ。</li> <li>・走ることが好きで楽しんでいる姿を大切に、ルールを伝えながらも、一緒に鬼ごっこをすることの楽しさを共感する。</li> <li>・次への手立てとして、他児の様子にも目を配り、少しずつ人数を増やしていくことも試してみる。</li> </ul>			
この計画内容を確認しました。		令和	年	月	日	保護者名

4歳児 F 児 事例⑥ ポイント挿入

個別支援計画

4歳児F児 事例⑥ポイント挿入

令和6年度 ~ 年度)

在園期間中、この1枚に年度ごとに追記するため、個別支援計画を作成し始めた年度から、就学前（5歳児）の年度まで、継続して追記していく。

児童名	性別	生年月日	担任	障がい・疾病等の状況	手帳の有無
高殿 三郎				令和5年度 ・戸外が好き。 令和6年度 ・身の回りのことには、気持ちが向きにくい。 ・戸外に出ると笑顔が多く見られる。 令和7年度 ・身体を動かすことが好き。(特に走ること) ・好きなキャラクターであれば視覚支援有効	身体障害者手帳 ( 手帳 級) 療育手帳 A・B1・ <b>B2</b> 精神障害者保健福祉手帳 1級・2級・3級 特別児童扶養手当 1級・2級

関係諸機関及び担当者名を記入する。福祉機関であれば担当者名を記載し、連携がとりやすいように、連絡先も記載しておくとう望ましい。

診断名だけでなく、年度ごとの特徴的な姿を記載する。子ども理解が進んでいく中で見えてくる、得意なことも記載することで、子どもの得意なことからもアプローチしていける。

該当箇所には○を付けたり、必要事項を記載する。

医療・相談機関 関係機関からの支援や情報

令和4年度 ・〇区保健福祉センター (〇医師) (◇保健師) 06-6××-×××× 令和6年度 ・〇区保健福祉センター (●医師) (◇保健師) ・大阪市〇〇こども相談センター (□さん) 06-×××-××××	令和4年度 ・令和4年〇月〇日 1歳6か月児健康診査：積み木を打ち合わせない、指差しが見られない、ことの指摘がある。発達相談(小児科・心理)につながる。 令和6年度 ・令和6年〇月〇日 3歳児健康診査：運動発達、精神・神経発達における問診票の記載及び診察時の所見により、発達検査につながる。 ・令和6年〇月〇日 新版K式発達検査(生活年齢3歳9か月) 認知・適応● 言語・社会● 姿勢・運動● 全体DQ● 発達年齢〇歳〇か月 軽度知的障害 療育手帳取得
---	---

「医療・相談機関」と「関係機関からの支援や情報」欄は、横を揃えて年度ごとに書く。

生活年齢を記載しておくとう良い。

客観的事実を記載する。

保護者の願い 支援の目標・内容

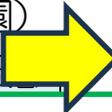
令和6年度 ・話せるようになってほしい。 令和7年度 ・言葉がたくさん出てほしい。 ・自分でできることが、増えてほしい。	令和6年度 ・感じたことや思ったことを、表情やしぐさ、または簡単な言葉で伝えることができるように、身振りやしぐさで伝えようとしている気持ちに気づき、言葉に置き換えて知らせていく。 令和7年度 ・安心して自分の思いを出せるように、子どもの気持ちを受け止め言葉を引き出していく。 ・身の回りのことを自分でしようとする気持ちが育まれるように、視覚支援も使いながら援助したり見守ったりする。
--	---

支援の内容は教育的意図をもった働きかけを具体的に記載する。

この計画内容を「保護者の願い」「支援の目標・内容」も、年度ごとに記載していく。

就学前教育カリキュラム P49「2歳児ラーニングデザイン」 P55「3歳児カリキュラム」参照

生活年齢ではなく、発達年齢を踏まえて参考にすることもできる。



児童名	高殿 三郎	家庭の様子：家では好きなキャラクターの動画を見て過ごすことが多い。同じ場面を繰り返し見たがり、そのたびに、母の手を引き要求するとのこと。	園長	担任(作成)	
クラス年齢	3歳児・4歳児				
項目	児童の姿	進級の境目の計画なので、生活面の姿に基づき、支援の継続のために記載しておくとうい内容もある。	具体的な支援・手立て	進級しても支援が継続しつなっていくことを目指すために、可能であれば「3月~4月」として、旧担任が作成できると望ましい。もち上がりであれば引き続き作成でき、担任が交代するのであれば、引継ぎの為のツールとしても活用したうえで、新担任が続けて作成していくことができる。	
生活	<ul style="list-style-type: none"> <li>登園時の朝の準備は、母が終わるまで待っているため、見守られながら自分でできるようになってきている。</li> <li>降園前の帰りの準備は、途中で気が散ることが多く、最後までやりとげることが難しい。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>帰りの準備を最後までする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>進級時に戸惑うことがないように、幼児クラスの保育室の環境は、できるだけ動線を統一する。</li> <li>帰りの用意に必要なものを一度に入れてカゴを渡し、全て入れてから自分のロッカー前でカバンに入れるようにする。</li> <li>最後までやりとげることができるように、終わりの会の活動を事前に知らせ、楽しみに思える気持ちをもたせる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>進級して保育室が変わったが、朝の準備は変わりなく自分でしている。</li> <li>カゴには、あまり興味を示さず、自分からは入れようとしない。</li> <li>終わりの会のエプロンシアターが気に入り、エプロンシアターがあると知っているときは、スムーズに準備することが多い。</li> <li>好きに走りたいので、追いかけるのではなく走っている。</li> <li>同じ鬼役の友達に「タッチするねん」と言われるが、聞いていない。</li> <li>ボードを使っての説明は見ている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>進級時の環境変化による影響を考慮し、幼児保育室の動線を統一できた。</li> <li>カゴの意味が分からなかったと思われる。アンパンマンのキャラクターが好きなので、カゴにつけてみることで、意欲につながる。</li> <li>好きなこと、興味のあることを取り入れ意欲を高め、自分でできた、という気持ちをもたせる。</li> <li>鬼ごっこには興味をもち参加しているが、ルールを理解できていないので、まずは鬼役ルールから知らせようとしたが、ねらいが適切ではなかった。</li> <li>クラスルールにしたことや、ボード等を使っての説明は、全体的には効果があった。</li> <li>説明時のボードを見てはいるが、実際に始めると理解できて</li> </ul>
認識	<ul style="list-style-type: none"> <li>園庭に出ると、一定時間は走っていることが多い。</li> <li>クラスでの鬼ごっこに興味をもち参加している。</li> <li>タッチされても走り続けている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>鬼役になり「タッチ」と言うことが分かる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>鬼役と逃げる役を帽子で色分けし、鬼役のルールが分かるまでは、鬼役を続ける。</li> <li>同じ色の帽子の他児の様子に気付くことができるように、鬼役は「タッチ」と言葉で言うことをクラスルールにする。</li> <li>クラス全体に、ボードとマグネットを使って視覚的に分かるように、鬼ごっこのルールを説明する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>「進級の境目の計画なので、生活面の姿に基づき、支援の継続のために記載しておくとうい内容もある。」</li> </ul>	
	他に気をとられやすい				
	集中して取り組めない				
	たくさんをすることが難しい				
	走ることが好き				
	ルールが分からない				
	「なぜ？」を考える。				
	ねらいが大きいすぎないか？				
	ねらいを達成するために、どのような支援・手立てを、どのような場面で行うのかについて具体的に記入する。				
	具体的な支援・手立てを行った中で対象児の姿を具体的に記載する。				
	「具体的な状況」を踏まえて、「具体的な支援・手立て」がどうであったか、ということの評価して書く。				
	この計画内容を印刷しました。				
	令和	年	月	日	
				保護者名	

前月からの  
つながり

殿 三郎

家庭の様子：動画の同じ場面を繰り返し見たがるたびに、手が取られることを母が煩わしく思い、携帯電話で動画を見せ操作を教える。自分でできるようになったことで、母への要求はなくなったが、さらに繰り返し見たがるようになる。

園長 担任(作成者)

家庭での困りが、高まっていくような姿が見られていることが分かる。施設でも同じような姿が見られてきていることから、保護者との会話で聞いたことであっても、大切な情報の1つである。

クラス年齢 4 歳児

項目 児童の姿 ねらい 具体的な支援・手立て 具体的な状況 評価・今後の課題

生活

・進級して保育室が変わったが、朝の準備は変わりなく自分でしている。終わると、母とハイタッチして「ばいばい」と手を振り母を見送る。  
・カゴには、あまり興味を示さず、自分からは入れようとしらない。  
・終わりの会のエプロンシアターが気に入り、エプロンシアターがあると知っているときは、スムーズに準備することが多い。

子どもの姿はプラスの姿も含めて具体的に書く。

・カバンに入れるものを全部自分でカゴに入れる。

前月のねらいが具体的になかったため、スモールステップでねらいを考える。

1つのねらいに対して、人的環境と物的環境の両面から支援の内容を考えることが望ましい。

「具体的な支援・手立て」を行った中での子どもの姿を、具体的に記載する。

「具体的な状況」を踏まえて「具体的な支援・手立て」がどうだったか、ということの評価して書く。

認識

・好きに走りたいため、追いかけるのではなく走っている。  
・同じ鬼役の友達に「タッチするねんで」と言われるが、聞いていない。  
・ボードを使っての説明は見ている。

・鬼ごっこで、逃げる役をする。

「ねらい」を1, 2つに絞り、スモールステップで置くことで、次のサイクルまでに達成しやすくなり、保育者は支援の効果を実感し、対象児は困りが1つずつ軽減され自信をつけていく。

・帰りの準備がスムーズにできるように、コップやタオル、出席ノートを全て入れてロッカー前に持っていくカゴに、好きなキャラクター（アンパンマン）をつける。

・終わりの会には、好きなことや興味のあることを取り入れることで、楽しみにできる気持ちから意欲を引き出していく。  
・できたときにはハイタッチをして、褒めて認める。

・逃げる役であることが分かるように、好きに走っているときに、鬼役に「タッチ」と言われて触られると『止まる』ことを知らせる。  
・保育者も一緒に逃げる役になり、タッチされたら帽子の色を変えるなど、モデルを示す。

・「アンパンマン!」と言ってカゴを気に入り、コップ等を自分で入れている。

・遊びのときにも、カゴを使っていることもある。  
・エプロンシアターの中でも、好きなものがあり、同じものを繰り返し見たいと要求する。  
・保育者とのハイタッチを喜ぶ。

・タッチされると1回は止まるが、またすぐに走り出し、2回目以降は、タッチされても止まらない。  
・促されて、帽子の色を変えることは嫌がらない。

・ねらいは達成できた。  
・カバンに入れ終えるまでを自分でできるように、次月も援助していく。  
・カゴに、好きなキャラクターがついていることを喜んでいますが、エプロンシアターで見せる姿のように、今後、固執していくことも予測できる。  
・母とのハイタッチと同様、新担任との関係が深まっている。

・走ることが好きなので走っているが、自分が逃げる役であることは認識していない。  
・ねらいが高すぎ、達成できなかった。次月は、保育者一人が鬼役になり、1対1での鬼ごっこをして、ルールを知らせていく。

新担任との関係が深まっていることを、他の支援でも生かすことができる。

この計画内容を確認しました。

令和 年 月 日

保護者名



児童	高殿 三郎	家庭の様子：動画を繰り返し見たがるので、1日3回（1回の動画は15分程度）と約束するのに、3回見たら終わりと分かるように、家でも園と同じシールを使ってみるとのこと。	園長	担任(作成者)	
項目	生活	ねらい	具体的な状況	評価・今後の課題	
前月からのつながり	<p>前月の「具体的な状況」に記載した姿と同じ内容を、より具体的に書くことで、つながりのある計画になる。</p>	<p>支援や手立ては、作成者以外の保育者が見ても、同じ支援ができるように具体的に記載する。1つのねらいに対して、人的環境と物的環境の両面から支援の内容を考えることが望ましい。また、できたことを認めたり、ともに喜んだりすることは、自信や意欲へとつながる大切な援助であるので、意識して実践する。</p>	<p>施設での手立てを、家庭にもリンクされることは、担任と保護者間に信頼関係があってこそ生まれる。</p>	<p>「具体的な状況」を踏まえて、「具体的な支援・手立て」が子どもの姿やねらいに合っていたのかどうかを、評価として記載するとともに、次月の方向性も記載しておくことで、支援が繋がっていく。</p>	
生活	<ul style="list-style-type: none"> <li>「アンパンマン!」と言って、帰りの準備用のカゴを気に入り、コップ等を自分でカゴに入れている。</li> <li>遊びのときにも、このカゴを使って、玩具や絵本を入れていることもある。</li> <li>帰りの準備ができたことを、保育者とのハイタッチで喜び合い、終わりの会に参加している。</li> <li>終わりの会でするエプロンシアターの中でも、好きなものがあり、同じものを繰り返し見たいと要求する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>カゴの中の物を、自分でカバンに入れる。</li> </ul> <p>帰りの準備に関して、手順の最後までを自分でやりきること見通しながら、スモールステップでねらいを置いている。対象児童が、生活面において自信をつけることが、保育者の教育的意図である。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>最後まで帰りの準備が自分できるように、手順を示したイラストをロッカーの目につく場所に貼る。</li> <li>自分でできた喜びを持続できるように、『できたねシール』を貼れるノートを準備する。</li> <li>シールを貼りながら、自分でできたことを褒めて認め、保護者にも伝えて共有する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>手順表を見ながら（合ってる?）（つぎは、これ?）というしぐさで、保育者に確認しながらカバンに入れる。</li> <li>シールをもらってノートに貼ると、他の保育者に見せる。</li> <li>お迎えにきた母親にも自分からノートを見せるようになり、褒められて喜んでいる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>ねらいは達成した。</li> <li>手順表にも、好きなキャラクターを付けたことで、目に留まりやすい。今後の視覚支援の際にも、工夫する。</li> <li>丸いシールにキャラクターの顔をマジックで描いただけの簡単なシールだが、これが励みとなり意欲と達成感につながったことが良かった。</li> <li>「このシールなら、家でもできますね」と母親から言ってもらえたので、今後も、園での姿を共有していく。</li> </ul>
認識	<ul style="list-style-type: none"> <li>鬼ごっこでタッチされると1回は止まるが、また走り出し、2回目以降は、タッチされても止まらない。</li> <li>促されて帽子の色は変えることは嫌がらない。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>保育者との1対1の鬼ごっこをする。</li> </ul> <p>新担任との関係が深まっていることを、他の支援でも生かすことができる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>鬼ごっこのルールが分かるように、保育者が鬼役になって追いかけて、「タッチ」と言われて触られると『止まる』ことを知らせる。</li> <li>走ることが好きで喜んでいる姿を大切に、ルールありきではなく、楽しい雰囲気の中で分かっているような工夫や手立てについて、担任間で一緒に考え試す。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>「タッチ」と言われて触られると、「タッチ」と言って止まる。</li> <li>一旦止まって、また走り出すのが、2回目以降もタッチされると「タッチ」と言って止まる。繰り返し、保育者に追いかけてもらうことを喜んでいる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>暑くなり、園庭ではできなかったが、夕方の保育の時間を利用して、毎日少しでも時間を取り、続けている。</li> <li>「タッチ」されたら『止まる』ことは分かったので、次月は、『交代』を知らせるために、引き続き1対1での鬼ごっこを</li> </ul>
この計画内容を確認しました。		令和 年 月 日	「具体的な支援・手立て」を行った中で子どもの姿を具体的に記載する。		

<p>児童名 高殿 三郎</p>	<p>家庭の様子：動画を見る回数について、園と同じようにシールを取り入れると効果的だった。そのシールを担当に見せてくて「もっていく！」ということへの言い聞かせができないで困っている、とのこと。</p>			<p>園長</p>	<p>担任(作成者)</p>
<p>前月からのつながり</p>	<p>4</p>	<p>基本的な状況</p>			<p>評価・今後の課題</p>
<p>項目 児童の姿</p>	<p>生活</p>			<p>認識</p>	
<p>・支援の必要はない。</p> <p>・「タッチ」と言われて触られると、「タッチ」と言って止まる。 ・一旦止まって、また走り出すが、2回目以降もタッチされると「タッチ」と言って止まる。 繰り返し、保育者に追いかけもらうことを喜んでいる。</p>	<p>・保育者との1対1の鬼ごっこで、タッチされたら鬼役と逃げる役を交代することが分かる。</p> <p>「生活」の項目が1つ減り、「認識」のねらいになったからといって、無理に他のねらいを置こうと考えるなくて良い。</p>	<p>・帽子の色を変えることは嫌がらないので、「この色の帽子の人は、鬼になるよ」「今度は、〇君が先生を追いかけてね」と具体的に伝える。</p> <p>・初めはタッチされやすいように逃げ、交代を繰り返し経験できるようにする。</p> <p>・「あれ、先生は次はどっちな～？」と聞くなどして、考える機会をもつ。</p> <p>・走ることが好きで楽しんでいる姿を大切に、ルールを伝えながらも、一緒に鬼ごっこをすることの楽しさを共感する。</p> <p>・次への手立てとして、他児の様子にも目を配り、少しずつ人数を増やしていくことも試してみる。</p> <p>走ることが、対象児の好きな活動であることを、保育者が理解する。それにより、集団遊びが、ルールありきのおさえ方にならず、楽しさに共感しながら遊び方を伝えていく、という視点をもつことができる。</p>	<p>「具体的な支援・手立て」を行った中での子どもの姿を具体的に記載する。</p> <p>この欄には姿のみ記載し、評価や課題は記載しない。</p> <p>新たに見えてきた子どもの姿があれば記載しておくことで、次のねらいにつなげていける。</p>	<p>「具体的な状況」を踏まえて、「具体的な支援・手立て」が子どもの姿やねらいに合っていたのかどうかを、評価として記載する。上手くいったことも評価としてきちんと記載しておくことが重要。</p> <p>「ねらい」が達成できたのか、できなかったのか。できなかったのであれば、その原因は何か、次にどのように改善していくのか、ということ必ず記載する。</p> <p>ねらいが達成できたときは、次の方向性（ねらいとして置こうと考えること）について記載しておくことで、計画がつながっていく。</p>	
<p>この計画内容を確認しました。</p>		<p>令和 年 月 日</p>	<p>保護者名</p>		



基本的な生活習慣が身に付いているかどうかは、対象児の姿を知るうえで重要な内容となる。生活習慣が一定身に付き困りがない場合でも、「生活」の項目をあげ『支援の必要はない』と記載しておくことで、保護者を含む、対象児と関わる全ての大人が共通認識できる。また、いずれ、困りが見えてくることもあるので、そのときには、ねらいにあげて支援する。

「生活」の項目が1つ減り、「認識」のねらいになったからといって、無理に他のねらいを置こうと考えるなくて良い。

走ることが、対象児の好きな活動であることを、保育者が理解する。それにより、集団遊びが、ルールありきのおさえ方にならず、楽しさに共感しながら遊び方を伝えていく、という視点をもつことができる。

「具体的な支援・手立て」を行った中での子どもの姿を具体的に記載する。

この欄には姿のみ記載し、評価や課題は記載しない。

新たに見えてきた子どもの姿があれば記載しておくことで、次のねらいにつなげていける。

「具体的な状況」を踏まえて、「具体的な支援・手立て」が子どもの姿やねらいに合っていたのかどうかを、評価として記載する。上手くいったことも評価としてきちんと記載しておくことが重要。

「ねらい」が達成できたのか、できなかったのか。できなかったのであれば、その原因は何か、次にどのように改善していくのか、ということ必ず記載する。

ねらいが達成できたときは、次の方向性（ねらいとして置こうと考えること）について記載しておくことで、計画がつながっていく。

